

育G新聞

Vol.10
イクジイが日本を元気にする。
毎月1回連載

育G新聞編集部 編集協力：
NPO法人 ファザーリング・ジャパン
NPO法人 孫育て・ニッポン

育G インフォメーション

イクジイ・スクール

NPO法人ファザーリング・ジャパンが主催する「イクジイ・スクール」第2期は、4月開講を予定しております。

最新情報は、HPをチェックしてください。
【HP】<http://www.fathering.jp/ikuji/>

「楽しい子育て・孫育て講座」全2回

【日程】1月11日(金)
【時間】13時30分～15時00分
【参加費】1000円(一家族)
【場所】台東区日本助産師会
【対象】祖父母、ママ・パパ
【問合せ】日本助産師会 03-3866-3054
【申込み】www.midwife.or.jp/kouza/kosodate

子育て・孫育て連続講座 「地域でイキる」を考える

1月19日(土)「がんばりすぎない子育て・孫育て」
1月26日(土)「イクメン・イクジイのチカラ」
2月2日(土)「地域共生からどうする?
これから子育て、教育、介護」
【場所】杉並区・細田工務店杉並リボン館
(1月19日、1月26日)
産業商工会館(2月2日)
【詳細】http://www2.city.suginami.tokyo.jp/guide/detail/9381/osirase_H24.pdf

育G登見

No.10

発酵学者・食文化論者 文筆家
小泉 武夫さん



福島の造り酒屋に生まれ、現在発酵学者としてだけでなく、文筆家としてもご活躍の小泉武夫さん。ご自身の専門分野でもある「食」を通じ、お孫さんとの関わりを楽しめている。

食事の前に祈りを捧げる民族はいますが、命あるものへの感謝の気持ちを持って“いただきます”という文化を持っているのは、私たち日本人だけです。命のない食べ物は、水と塩だけ。そのほかすべてのものに命があり、その命を頂いて私たちは生きている。素晴らしい文化ですね。でも、物質、文明の時代になり、最近の日本人は食べもののありがたさを忘れている。私は父に、『日本人たれ。日本人の生き方をしろ』と教えられました。数千年続いた日本の文化には、『いただきます』だけでなく、本当に素晴らしいものがいっぱいあります。子育てをしているときもそうでしたが、孫にもそれらを伝えていくのがじいじの役目と思って、いろいろな話をしています。(日本全国のおじいちゃん、おばあちゃんにもぜひお孫さんたちに伝えて欲しいと「食で日本一の孫育て虎の巻」(マガジンハウス)を最近出版)。

話をするだけでなく、一緒に料理をす

るのも楽しいですよ。漬け物は、刻々変化があるから子どもも興味を持ちやすい。「昨日漬けたミョウガ、どうなってるかなあ?」といって取り出して食べる。また、おすすめなのは、玉子焼き。作り方? そんなのはいいんです。まずは玉子をぐるぐると混ぜて焼いてみる。何回もやって、自分の好きな味、焼き方にアレンジしていけばいいんです(私の場合は、だし汁とお酒を加えます)。子どもって酒のつまみも好きなんですね。イカの塩辛を作ったら、おいしいおいしいと言って食べてました。私は小学生の頃から料理をしていました。料理をすると、運動神経もよくなるし、手も器用になる。同じようにやっても、結果が違うから、考えるようになる。料理はいいですよ。

孫をはじめ、子どもたちと接していく思うのは、子どもは楽しいこと、おもしろいことが大好き。子どもと接するときには、大人はえらそうにせず、バカになることが秘訣ですかね(笑)。

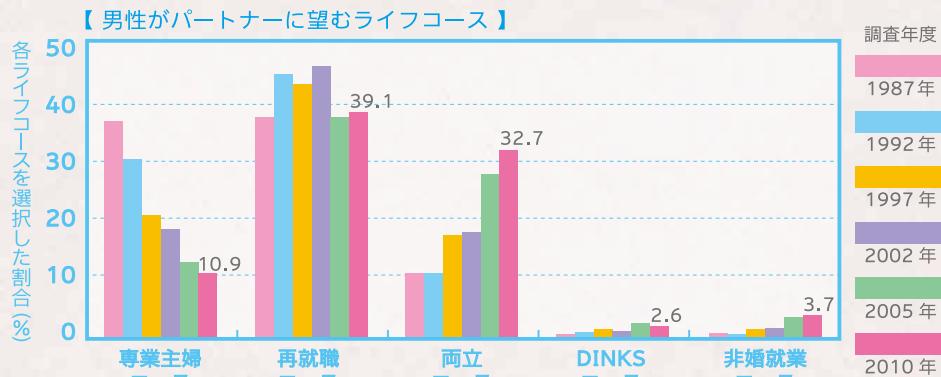
育G潮流

女性が働きたい、
それとも女性にも働いて欲しい？

働く女性が増え、保育園が足りず、待機児童が毎年出ていることは、テレビや新聞などでご存じの方も多いだろう。女性も男性と同じように大学を卒業し就職するのが一般的になった。私が就職した今から20年前は、「寿退社」といって、結婚を機に退職する人が多かったが今は違う。

結婚、出産後も働く女性が増えた要因として、自分らしく生きたい、職場の制度が整ってきたなど、女性の生き方の変化や職場の制度について取り上げられる場合が多いが、実はその裏に男性の意識変化が起きていることがわかった。

1987年の「出生動向基本調査 結婚と出産に関する全国調査」によると、男性がパートナーに望むライフコースでは、専業主婦 37.9%（結婚し子どもを持ち、結婚または出産の機会に退職）、再就職



38.3%（結婚し子どもを持つが、結婚または出産の機会に退職し、子育て後に再び仕事を持つ）、両立 10.5%（結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける）。結婚、出産を機に仕事を辞めて欲しい（専業主婦または再就職）と望んでいる男性が 76.2%であったのに対し、2010年の調査では、専業主婦が 10.9%と 27.0%減、再就職が 1.8%増の 39.1%、両立はなんと 22.2%増の 32.7%という結果になった。

今から25年前は、男が仕事をし、家族を養い、女が子どもを育て家庭を守るという考え方を持つ男性が多かったが、現在は女性が働きたいというだけでなく、男性側に働いていて欲しいという願望があ

るようだ。背景には、日本の経済状況からくる雇用の問題が見え隠れする。

今後働く女性は、もっと増えるだろう。過去のデータからの流れを見ると、予測できることがたくさんある。それなのに、国の施策が後手後手になってしまい、何故だろうか。保育園の入園結果が出るのは2~3月。その影響が祖父母に及ぶこともあるので、まずは状況把握をおすすめしたい。

(NPO法人孫育て・ニッポン 理事長 ぼうだ あきこ)

育Gの極意

ピックリお年玉

お正月といえばお年玉。お年玉は何歳になったらあげるのか。これは家庭により様々であるが、お金はまだ早いと感じるならば、ピックリ箱ならぬピックリお年玉がおすすめ。

大きさ形は、ポチ袋にとらわれることはないが、「こんなチビちゃんにもお年玉を用意してくれたの？」と、その場を盛り上げるには、ポチ袋の方が演出力があるかも。中身、それはジジイの創造力におまかせ。文房具屋さんのカード売り場にはヒントがいっぱい。くれぐれもクリスマスソングのオルゴールなど、入れないように！

育G ZYT

育G stylist G・ハヤシがアドバイス
「孫と楽しむ おせち料理」

日本のお正月にかけない「おせち料理」にはさまざまな願いがこめられています。
お孫さんと一緒に、その意味をたしかめながら召し上がってみてはいかがでしょう？

栗きんとん



黄金色が金運と結びついているとも。栗も「勝ち栗」にちなんだ山の幸です。



昆布巻き



「よろこんぶ」と言われるようく幸せと繁栄のしるし。縁起のいいダジャレです。

黒豆



まめに働けるように。
生命力が詰まった豆のように
健康に暮らせるように、との
願いから。

他にも、「ステーキ」は「素敵な一年になるように」のように、
ごちそうに我が家ならではの意味をつけるとますます楽しい食卓になりそうです！